

件名	令和元年度第2回 おおた健康プラン推進会議		
日時	令和2年2月14日(金) 午前13時30分から15時00分まで	場所	大田区産業プラザ D会議室
出席者	委員16名、庁内33名、傍聴1名	進行	佐々木健康医療政策課長
事務局	健康医療政策課		
議題	1 おおた健康プラン(第三次)の取組について 2 「はねびょん健康ポイント」アプリのダウンロードについて 3 令和2年度予算(案)について		
議 事 要 旨			
1 おおた健康プラン(第三次)の取組について			
○おおた健康プラン(第三次)の中で、健康政策部で特に力を入れている重点事業(キラリ☆健康おおた、健康経営事業所認定・表彰事業、はねびょん健康ポイント)の取組を中心に報告。			
(1) キラリ☆健康おおたの普及啓発 部内各事業のパンフレット等でのロゴの表記、大田区出身の丸山桂里奈さんへのインタビューを掲載したパンフレットの作成、キラリ☆健康おおたをテーマとした地域力応援基金助成事業の募集等。			
【主な意見】 地域で継続して運動に取り組める環境づくりが必要。 働き盛り世代が運動に取り組める環境づくりとして健康経営事業との連動が効果的。			
(2) 健康経営事業所認定・表彰事業 初年度として19事業所を認定し、地域・企業と連携した取組の推進を図っていく。			
【主な意見】 2年目以降の事業の進め方を検討する必要がある。 (認定基準の見直し、認定のメリット拡充等)			
(3) はねびょん健康ポイント 12月1日から事業開始し本日現在のアプリダウンロード数は4,800件。「健康づくり」のテーマのもと、庁内外で連携しながらイベント等の開催を継続して計画。			
【主な意見】 ダウンロード・利用者数増加の施策、ターゲット世代へのPR等、より効果的な内容を検討。 ポイントが獲得できるイベントを庁外も含めて積極的に活用する必要あり。			
2 「はねびょん健康ポイント」アプリのダウンロードについて			
○アプリのダウンロード方法、活用方法の案内。			
【主な意見】 周知するだけでなく、実際にダウンロードしてもらうための工夫、健康経営事業との連動、スマートフォンを使い慣れない高齢世代への働きかけ方法について検討する必要がある。			
3 令和2年度予算(案)について			
○令和2年度予算案から健康政策部の11事業を案内。			
○新規事業として「人生100年を見据えた健康寿命延伸プロジェクト」について案内。 (概要：行政データとアンケート調査を区内18地区毎に分析し、科学的根拠に基づく効果的な健康づくり施策の策定を目標とし、東邦大学と4年間にわたり共同研究を行う。)			
【主な意見】 共同研究で事業の効果測定を科学的に実施し、より効果的な事業施策を組み立てる必要がある。			

発言者 議事	内容
<p>開会 健康医療政策課長</p>	<p>皆さま、こんにちは。</p> <p>定刻になりましたので、ただ今から「令和元年度第2回おおた健康プラン推進会議」を開催させていただきます。</p> <p>本日は、お忙しい中ご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。私は、本日の司会を務めさせていただきます、健康医療政策課長の佐々木と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。</p> <p>本会議は公開となっております、傍聴が可能です。また、本日の会議の内容につきましてはホームページで公開をするため、録音、写真撮影をさせていただきますことをご了承いただければと存じます。</p> <p>それでは、開会に当たりまして、大田区健康政策部長、今井より、ご挨拶を申し上げます。</p>
<p>挨拶 健康政策部長</p>	<p>皆さん、こんにちは。大田区の健康政策部長の今井でございます。本日はお忙しい中、この推進会議にお越しいただきまして、まことにありがとうございます。</p> <p>従来であれば、この推進会議は、計画策定の年とその前年の年は、年に2回開催しておりますが、それ以外は年に1回ということで、今年度も、当初は年1回というふうに予定しておりました。しかしPDCAサイクルの中でしっかりと検証をして、効果的に進めていくためには開催すべきではないかという思いもあり、会長の西脇先生にご相談し、皆様にご協力をいただき、開催することができました。重ねて感謝を申し上げます。</p> <p>令和元年度は、おおた健康プラン（第三次）のスタートの年、初年度の年に当たりまして、さまざまな新しい取り組みを行っております。健康ポイント事業、健康経営事業、その他さまざまな新しい取り組みを行ってきました。そうした年だからこそ振り返り、検証することが必要だというふうに思っております。区の方でも、今、検証しているところですが、それぞれの識見をお持ちの委員の皆様のお立場から、ご意見をいただくと違った気づきが得られるのではないかと思います。本日は、1年間の取り組みを振り返り今後の計画期間4年間で効果的に目標を達成するために、課題のご指摘とご提案、ご助言をいただきますようお願いしまして、私からの挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日は、どうぞよろしくお願いいいたします。</p>
<p>議事 健康医療政策課長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、これ以降、着座にて説明をさせていただきます。資料につきましては、各委員の皆様事前に送りをさせていただきました。</p> <p>また、本日、机上におおた区報10月1号、キラリ☆健康おおたと書かれた三つ折り、縦長のリーフレット、資料番号ア、「キラリ☆健康おおた」</p>

	<p>のぼり使用例と書かれた資料。おおた健康メニュー協力店、ほかクリップどめした健康政策部発行のパンフレット、チラシ。そして、資料番号イ、令和元年度実施地域力応援基金助成事業活動報告書と書かれたホチキスどめの資料。資料番号ウ、令和元年度おおた健康経営事業所一覧と書かれた資料。資料番号エ、7/26おおた健康プラン推進会議質問票（塚越委員）と書かれた資料。資料番号オ、大田区令和2年度予算（案）の概要と書かれたホチキスどめの資料。</p> <p>また、資料番号はございませんが、桑田委員から事前にご意見をいただきましたので、そのメモと、おおた健康プラン推進会議連絡用のメールアドレス提供のお願いと書かれた通知を封筒でお配りしてございます。</p> <p>最後に、委員の皆様には、はねびょん健康ポイントの台紙版をお配りしているところでございます。</p> <p>ここまでで、資料の不足等はございませんでしょうか。</p> <p>またお気づきの点がございましたら、後ほど、お声かけをいただければと存じます。</p> <p>次に、前回、7月の会議でご出席をいただけなかった委員の方のご紹介をさせていただきます。お名前をお呼びしましたら、ご起立をいただき、一言、自己紹介をお願いいたします。</p> <p>一般社団法人田園調布医師会より、瀬川貴委員でございます。</p>
瀬川副会長	<p>皆様、はじめまして。大田区の上池台で内科クリニックを開業しております、田園調布医師会の瀬川と申します。今期から私が担当させていただくことになりました。どうか皆様、よろしく願いいたします。</p>
健康医療政策課長	<p>ありがとうございます。</p> <p>なお、瀬川委員におかれましては、本会議の副会長として就任のご承諾をいただいております。</p> <p>続きまして、大田区食品衛生協会より、指田健二郎委員でございます。</p>
指田委員	<p>少し遅くなりまして申しわけございませんでした。大田区食品衛生協会の指田と言います。なかなかちょっと出られないことが多く、前回もちょっと出られなかったんですけども、今後も一生懸命やっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
健康医療政策課長	<p>ありがとうございます。</p> <p>もうお一方、区民公募より牧野二三代委員がいらっしゃいますが、本日は遅参ということで伺っているところでございまして、後ほどお見えになりましたら、ご挨拶を頂戴できればというふう存じます。</p>

<p>西協会長</p>	<p>内部委員、庁内の職員の出欠の状況でございますが、有我福祉管理課長、曾根障害福祉サービス推進担当課長、中村子育て支援課長、政木学務課長は、それぞれ公務のため、欠席となっております。また、高橋感染症対策課長につきましては、新型コロナウイルス感染症対応のため欠席をさせていただきます。ご了承ください。</p> <p>それでは、以降の議事の進行につきまして、西協会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。</p> <p>はい、わかりました。時間も限られておりますので、早速、議事次第に従いまして、議事を進行していきたいと思っております。</p> <p>次第とあります、この1枚紙に沿って行きたいと思っております。</p> <p>まず、議事の（1）番、おおた健康プラン（第三次）の取組についてということで、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
<p>健康医療政策課長</p>	<p>それでは、資料番号1をごらんください。おおた健康プラン（第三次）の取組につきまして、前回、7月以降の進捗状況をまとめました。前回同様、健康プランの計画体系、基本目標1-1から基本目標3-2について、主な取り組みを記載しております。</p> <p>各取り組みのうち、今回は、健康政策部で特に重点的に取り組んでまいりました基本目標1-1、キラリ☆健康おおた、おおた健康経営事業所の認定、はねびょん健康ポイントにつきまして、事前配付資料及び本机上配付しました資料、チラシ等で別途追加説明をいたします。</p> <p>まず、キラリ☆健康おおたでございます。資料番号2をごらんください。委員の皆様にも、前回の会議で（仮称）おおた健康プロジェクトとしてご報告、ご相談しました件につきましては、キラリ☆健康おおたと名称を決定し、さまざまな形で普及啓発に努めているところでございます。</p> <p>名称の決定に当たりましては、菅委員より、「キラリ☆」のアイデアをいただきました。菅委員には、この場をおかりして御礼を申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>本日、机上には、この間作成しました区報10月1日号と三つ折りのリーフレットをお配りしております。</p> <p>また、全16ページの健康情報誌が、近日中に完成予定でございます。内容ですが、巻頭インタビューとして、大田区出身の元サッカー選手で、現在タレントの丸山桂里奈さんにご協力をいただきました。</p> <p>また、運動を初めとするキラリ☆健康おおたのアクションごとに誌面を構成しており、このうち、食事と休養の取り組みを紹介するページでは、ナビゲーターとして、本会議の山崎委員と五十嵐委員にもご登場いただいております。さらに、はねびょん健康ポイントの紹介記事も掲載をしてご</p>

ございます。本日お配りができず、大変申しわけございません。委員の皆様には、発行次第、改めてご案内をさせていただきます。

また、イベント等での普及啓発の目印としてのぼり旗を作成し、本日、会議室の廊下側にご用意してございます。こののぼりにつきましては、こちら山崎委員にご協力をいただきました、はねびよん健康ポイントの健康体感フェアで掲出をしてございます。その様子の一部は、本日お配りしております資料番号のアでご紹介しております。

さらに、健康政策部が実施する各事業のパンフレット等にも、キラリ☆健康おおたを表記し、部内一丸となって普及啓発に向けた取り組みを行っているところでございます。

この間、地域力推進部と連携し、地域力応援基金助成事業にキラリ☆健康おおたの普及啓発をテーマに募集をしまして、三つの応募団体による取り組み、ポールウオーク、ヘルシープレートダイエット、スタンプラリー、イベントでの内臓脂肪測定などが行われております。

本日、資料番号イの活動報告書をお配りしております。このうち、花とみどりで心と身体の健康づくり事業につきましては、本会議の牧野委員が参画されているNPO法人大田・花とみどりのまちづくりによるガーデニング活動を中心とした取り組みでございます。今後も年数回の定期情報誌の発行など、引き続き、キラリ☆健康おおたを普及啓発してまいります。

続きまして、健康経営についてでございます。資料番号3をごらんください。

プランの計画の特徴の一つである、地域や企業と連携した取り組みの推進の一環としまして、今年度より実施しました、おおた健康経営事業所認定事業につきましては、おかげさまをもちまして、計19社を認定することとなりました。8月27日に実施した事業説明会では、五十嵐委員に健康経営に関する講演を行っていただいたほか、資料番号4として、事前配付しました認定基準等の作成にもご協力をいただきました。ほかの委員の皆様にも、募集に関する周知にご協力をいただき、感謝申し上げます。

本日は、資料番号ウで認定事業所の一覧をお配りしております。このうち、ブロンズランクのナンバー9は、馬場委員が代表取締役を務めておられるサンユウ建設株式会社様でございます。サンユウ建設におかれましては、ホームページ上での事業所名は公表しないというご希望をいただきましたが、馬場委員より、本会議での報告についてご了承いただきましたので、この場をおかりしてご紹介をいただきます。馬場委員、ありがとうございました。

3月には、ここ大田区産業プラザP i Oの小展示ホールで、区長から認定事業所に認定書をお渡しする表彰式を実施いたします。表彰式では、日本工学院専門学校に制作協力をお願いした認定用ロゴマークの発表

	<p>も、あわせて行う予定でございます。(注：表彰式は新型コロナウイルス感染症対策として中止となりました。)</p> <p>手続の都合上、本日の会議では、皆様にこのロゴマークをご紹介することはできませんが、後日、ホームページで公開をすることといたします。</p> <p>おおた健康経営事業所認定事業につきましても、引き続き、本事業の周知・拡大に努め、健康経営が目的とする、企業の従業員への健康維持増進の取り組みによる従業員の活力、生産性の向上のほか、人材確保のための企業イメージの向上等につなげてまいりたいと考えてございます。</p> <p>続きまして、はねびょん健康ポイントについて、担当よりご説明を申し上げます。</p> <p>健康政策部副参事の関と申します。座って失礼いたします。</p> <p>12月1日よりスタートいたしました、はねびょん健康ポイントについて、少し説明をさせていただきます。18歳以上の在住・在勤区民に対して、健康づくりのきっかけと楽しく健康づくりを継続してもらうためアプリケーションを使ってポイントがたまり、ポイントがたまったら、景品と交換をもらえるという事業をスタートさせていただきました。</p> <p>おかげさまで、12月1日よりスタートいたしまして、きょうの時点で、あともう一息で4,800ということになっております。3月までに1万人を目指すということで、どうぞ、きょうご出席をいただいている皆様方にもご協力をいただければと思います。</p> <p>事業全体の説明につきましては、事前にお配りしました資料をお目通しいただければと思います。</p> <p>「健康づくり」というテーマを中心にして、全庁、ハード、ソフトのいろんな区が取り組む政策を横串に刺した健康まちづくり事業にしたいということでスタートしております。初年度は1万人ですが、5年度5万人を目指すということで、継続してこちらの事業の経過もこの会議等で報告をさせていただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>地域保健担当副参事</p> <p>健康医療政策課長</p>	<p>また、前回、7月の会議で、机上配付後、回収しました資料、資料番号のエ、塚越委員からの質問票につきまして、お配りをしております。このうち、ナンバー10、生活習慣病に関する具体策につきまして、委員より会議上ご質問がありました生活習慣病有病率が一番低い新宿区の取り組みについて、回答が保留になっておりましたので、追記をさせていただきます。</p> <p>このほかの項目については、前回お示した内容からの変更はございません。</p> <p>なお、桑田委員におかれましては、健康プランや健康経営についてご意見をいただきました。内容でございますが、運動では、具体的な場の紹介</p>

	<p>や情報の整理の必要性。子どもの健康づくり教室では、食育を含む保護者への普及の重要性。産後ケアでは、官民連携での場の提供やコミュニティの形成。健康経営では、運動の場の提供や確保と認定基準での明示、企業への具体的なメリットへの記載について、それぞれご意見をいただきました。桑田委員、ありがとうございました。今後、事業実施に当たりまして、参考にさせていただきます。</p> <p>なお、産後ケアでございますが、0歳児の保護者を対象に、今年度、モデル的に運動に関する事業を実施しているところでございます。</p> <p>事務局からの説明は以上でございます。</p>
西協会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま、議事の1番に関しましては、事務局からご説明をいただきましたけれども、今のご報告に関しまして、ご意見、あるいはコメントがあれば、お願いしたいと思いますが、委員の方でございましたら、手を挙げていただければと思いますが、いかがでしょうか。</p>
塚越委員	<p>ありがとうございます。塚越でございます。</p> <p>これは、今、取り組みシート全てについての質問という理解でいいですか。この取り組みシート、三次の取り組みシートには1ページ目を説明いただきました。</p> <p>まず、はねびょん健康ポイント事業についての登録PRを今、非常にされていると思います。これが、もともとは、前回、私が質問を差し上げた5万人は、何の目標なんですかということに対して、横浜のウオーキングポイントを参考にしていると。あそこの市民の2%が初期登録をしているので、大田区でも71万人の2%が大体5万人ぐらいだという計算でされている。それで、今、4,000人まで行っていると。ほぼ5,000人ですか、まで行っているというお話で、この登録のPRについて、まず一つ確認というか、ご質問等を差し上げたいと思います。</p> <p>昨日、たまたま小学校PTA連絡協議会で区長を囲む会というのがありまして、そこで、区長から直接、このはねびょんの健康ポイントについて10分ほどプレゼンをしていただきまして、それを聞いて、ああ、なるほど、素晴らしい取り組みだなと思いつつ、その場ではアプリを私は登録せず、なぜ登録したかという、きょう、これに来るためには登録しなさいという資料が入っていましたので、それで、初めて登録したという感じでございます。</p> <p>それで、この登録までに持っていくというのは、やはりこういうPRの冊子とかリーフレットだけでは、なかなかすぐに登録をしないということもあるのかなと思って、幾つか登録のPRについて、まず、回覧板への自治体への周知という意味では、恐らく区報とか回覧板で配っていると思う</p>

のですけれども、私の自治会では、今、妻がちょうどこの区報を回覧板に入れる担当なんです。その彼女にこれを聞いたら、いや、これ、はねびよん健康ポイントを知らないと言ってきたんです。それで、何でだろうと思ったら、今、区報に、10月号と出ているのですが、小さいところに書いてあるので、多分妻が入れながら気づかなかっただろうと。なので、回覧板等、この区報の周知についても、何かこれを繰り返しできるというのかなというふうの一つ思いました。

それで、登録ポイント二つ目が、子育て世代と、あと、両親学級や健診など、子どもの健診ですね。こういったところでも、登録してくださいということをしつこく言っていくことが、また必要なのかなというふうに思います。

こちらは、データ上は、特に子育て世代の健康に取り組めていないと、忙しくてというデータがあったかと思います。子どもが生まれた一人目を迎える夫婦に、ぜひこの健康ポイントを登録してくださいという案内を、保健師さん等からしていただくことが必要かなというふうに思います。

それで、登録ポイント、3ポイント目が、2ページ目になるんですけど、たばこの話が出ています。これは、たしか登録するときにも、たばこを禁煙しますか、しませんかみたいな質問もあって登録をしていくんですけども、たばこのセミナーに参加するとポイントがたまるとか、何かこういうほかのセミナーや健診等との連携をポイントとくるめてやると、もっとも進むのではないかと。

それは、3ページ目の成人のつどいの参加について、ピロリ菌の検査というのがありますけども、成人のつどいに来た成人の人たちに、みんなこの健康ポイントを登録してねということ、またしつこく言っていか、何かこの辺で1万人が突破できるというふうな感じで思いました。

それで、すみません、二つ目が、健康経営事業所認定事業について、20社、今回、初で集まったということなんです。まず、この集め方に何か工夫があったのかどうか。通常、こういうのは営業を区の職員がやったりするものなので、そこに何か、ただ広報しただけで20社が勝手に集まったのか、何か工夫をされたのか。

そして、この2年目以降どうしていくのかというところです。私、働き方改革等でいろんな自治体と連携しながら事業を進めておまして、こういう認定というのは、2年目、3年目、5年目というのがどんどん減っていくと。それで、なかなか企業数が集まらないということで、非常に苦労されることが多いので、2年目以降の取り組みの工夫なりを、今、考えていらっしゃることがあれば、教えていただければと思います。

以上です。

西協会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>いかがでしょうか。二つ大きくご質問があったかと思いますが、まず、健康ポイントの方。</p>
地域保健担当副参事	<p>ありがとうございます。健康ポイント事業のPRについてということで、状況を報告させていただきます。</p> <p>まず、12月からスタートをするに当たりまして、11月から事前のPRを始めております。11月2日、3日のOTAふれあいフェスタ、平和島公園等でやっている大きなお祭りなのですが、そこで、まずイベントをさせていただきました。</p> <p>その後、1月に入りまして、区役所の3階のロビーで1週間イベントをやらせていただき、1月下旬に、グランデュオの連絡通路を借りられましたので、そちらの方で、きょう、山崎校長先生もお見えですが、佐伯栄養専門学校さんや明治安田生命さんなどと共同ということで、イベントをやらせていただきました。</p> <p>実は、つい先々週なのですが、ファミリーコンサートということで、子育て世代にもぜひとも来ていただきたいということで、池上会館でファミリーコンサートもしております。それぞれのイベントも全て3桁くらい来ていただいております。この事業のリアルさというのが、毎日ダウンロード数がわかりますので、イベントがどれだけ効果的だったかというのが、本当に顕著に数字でわかってまいります。ということで、幾らチラシをまいても難しいんだというのが、実際見えてきまして、イベント会場で実際に、こんなふうにダウンロードしますと実際職員がスマホ操作の対応をできるようにします。こうするとかなり参加者数が伸びるという数字が見えてきております。</p> <p>ご質問がありましたように、子育て世代にぜひということですので、私ども健康づくり課の窓口で母子健康手帳の交付などしておりますので、もちろんそこでも、ダウンロードのお願いですとかPRをさせていただいております。</p> <p>たばこと運動ということでは、ダウンロードをしていただくと、禁煙をしてもポイントがたまるような仕掛けにしております。禁煙すると50ポイントか100ポイントがつくような仕掛けになっているかと思いません。</p> <p>実は、1月の成人のつどいも、私どもブースを設けまして、かなり人も出してPRをしたのですが、若い方は健康というよりは別のことに関心があるのかなというところで、数字の伸びとしてはかなり厳しかったかなというふうに感じております。</p>

<p>西協会長</p>	<p>これからも、まさにターゲットとする世代にこの事業が届くようにPR方法を工夫していきたいというふうに思っておりますので、いろいろご意見いただければと思います。ありがとうございます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>2点目の方は、いかが、健康経営の。</p>
<p>健康医療政策課長</p>	<p>健康経営の認定事業所の募集につきましては、今年度、先ほどご案内しました講演会の中で、五十嵐委員も健康経営についてのお話をいただいたことを皮切りにしまして、2カ月間の応募期間を当初設けてまいりましたが、応募状況を鑑みて、15日間延長して、それで、20社に到達をしたということでございます。</p> <p>その間、何をやってきたかと申しますと、商工会議所大田支部さん、また、商店街連合会さんにそれぞれ出向きまして、事業の趣旨等をお話しさせていただいたほか、区立民営、民立民営の保育事業所につきましては、保育サービス課さんの協力もいただきながら説明をしてまいりました。また、そのほか、法人会での説明や介護保険課を通して介護事業所へのPRなどなどを行ってまいりました。ジェイコムさんの番組にも出演をしてのPRもやらせていただきました。</p> <p>来年度、2年度以降の取り組みでございますが、講演会については、今年度認定した事業所さんにご登壇いただいて、経験をお話いただくことも含めて、健康経営についての考え方の普及啓発をさらに図ってまいりたい。そのほか、募集期間についても、3カ月間確保できるような取り組みもあわせて行って、募集についても広く働きかけてまいりたいと思っております。</p> <p>また、桑田委員からも話がございました健康経営について、やはり企業側のメリットといったものも明示をしたほうがいいのではと、そういったご意見も頂戴しておりますので、区役所の関係部局にも協力をいただきながら、メリットについても拡充していくような働きかけもしてまいりたいというふうに考えてございます。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>西協会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>健康経営に関しましてご尽力をいただいた五十嵐委員、何か追加のコメントとかあれば。</p>
<p>五十嵐委員</p>	<p>認定事業所の認定の委員会の委員長を仰せつかっておりました五十嵐でございます。どのくらい応募が来るのか、私たちも初めての取り組みでしたので、どうなんだろうと思っていたんですけども、非常に大企業から</p>

	<p>10人未満の本当に町工場レベルの事業所様から、非常にバランスのとれた形で応募がありまして、経産省の国のやっている健康経営とはまた違う応募の状況があって、大田区ならではの展開のスタートになったかなというふうに思っております。</p> <p>今もご指摘がありましたように、この健康経営を取ることが企業にとってもメリットであるというところから、良好事例として展開できれば、数がふえていくのではないかなというふうに思っているんですけども、一方で、この審査の難しさというのがありまして、特に今回、ゴールドを差し上げるところに関しましては、保健所の職員の皆様がヒアリングに行っていたりとかということで、間違いないというところで、品質の保証ということもさせていただいた中で表彰ができたんですけども、これがどんどん増えていったときにどうするかというところの問題もあります。</p> <p>しかしながら、やはり大きな企業もそうなんですけれども、小さな中小企業がここに参画していただいて、働く人たちの健康づくりというのが、これをきっかけに進んでいくことが非常に望ましいというふうに思っておりますので、やはり数を限定するというよりも、広くこの考え方が広まって、事業所全体が元気になっていくような取り組みというのが、これから望まれると思います。</p> <p>それから、あと、基準を明らかにしてほしいというようなご意見もありましたけれども、ことしの4月から、受動喫煙防止対策で事業所での喫煙対策も進んでいきますので、そういった法遵守も並べまして、特に、喫煙に関しては強化していくようなこともさらに考えていかないといけないかなというふうに、委員の中でもそんなご意見がありまして、本当に健康経営がなんちゃってでないように、本当にいい企業なんだなというような品質の保証をしながら、大田区ならではの事業所認定を進められたらいいなというふうに思っております。</p> <p>以上です。</p>
西協会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>山崎委員は、ご追加はございますか。</p>
山崎委員	<p>特にございませんけれども、この国で進めているスマート・ライフ・プロジェクトでは、企業やいろんなところを表彰しているということの多分大田版ではないかというふうに私は思っていますので、こういうことをやっていないければ提案しようと思っていたのですが、やっているということです、いい方向に行けばいいかなというふうに思っています。</p>
西協会長	<p>ありがとうございます。</p>

<p>馬場委員</p>	<p>あと、先ほどお名前が出た馬場委員は、そういう事業所側から何かご発言はございますか。すみません、突然振っちゃいまして。</p> <p>事業所としてやらせていただいたんですけども、正直、会社に持ち帰ったときに、何かやることがふえるんじゃないというのが、最初に総務のほうから言われたのが事実です。やらないでいいのならやらないでも何か変わるのというのをちょっと言われたので、何か桑田委員からも出ていたメリットとか、これで就活とかで新しい方にも、そういった印象をどうやって位置づけられるかなというのが、今、模索中です。</p> <p>以上です。</p>
<p>西協会長</p>	<p>ありがとうございます。認定のロゴがもうすぐできるんですけど。さっきの説明だと。そういうのもいろいろ掲示していいとか、そういうルールなんですよ。</p>
<p>健康医療政策課長</p>	<p>認定事業者様には、ロゴマークを、本当に本日お見せできないのが残念なんですけど、力作なんですよ。こちらを名刺に張りつけていただくとか、ホームページ等で添付して見ていただくとかというような形で、どんどん活用していただければというふうに考えております。</p>
<p>西協会長</p>	<p>事業所側からもご提案いただくのがいいのかななんて、私自身も思っております。いい方向に進めばいいかなと。</p> <p>すみません、健康経営のほうを少し話を膨らませてしまいましたけど、当初に戻りまして、全体、この議題1に関しまして、どの部分でも構いませんけど、ほかの委員から、ご質問、あるいはコメントはいかがでしょうか。</p>
<p>桑田委員</p>	<p>ありがとうございます。桑田でございます。</p> <p>私は、スポーツや運動の場を現場で長く指導したり環境を整備している視点からこの健康経営の三次プランで気が付くことを紙に書かせていただき提案させていただきました。これは、基本的には行政のほうで既に取り組んでおられる内容ばかりだとは思いますが、現場目線で一言申し上げると、やはり幼児から子ども、大人、高齢者、障がい者を含めて、安定的に継続的にやれるような環境が、実は、地域においては非常に厳しいということが現状であります。私は、スポーツが専門ですから、スポーツの視点から見ましても、そこをどうやって担保し確保していくか。それと同時に、専門の指導者をやはり入れていくということが非常に大事な話になっております。そういう点からも、事業性という問題も含めて、今後、ぜひ、健康政策面からも、運動とかスポーツを気楽にやれる環境づくりとい</p>

	<p>うことをぜひ、さらに進めさせていただけたら、非常にうれしく思います。</p> <p>それと、健康経営からも指摘しておりますけども、私も、馬場社長と一緒に、大田区内で企業運動会を仕掛けまして、その後各企業を回って、企業で昼休み少しストレッチ等従業員にどうですかというようなことを始めました。ある企業では、来年度予算をとっていただいて、それを我々がお手伝いをしていくような環境づくりができてきました。</p> <p>実際、現状が若い従業員の方々にお話を伺いますと、やはり運動する場がないんですね。もちろん国が言っているこの健康政策のいろんな項目があります。健康診断等いろいろありますけれども、実際は、やはり従業員の方々が職場と離れた環境で、運動とかスポーツをやりながら、違った意味でのコミュニティづくりという環境が、日本の企業環境ではなかなか厳しいんじゃないかと思っております。そういうことは、やはり民間と一緒に組んで、行政だけではできませんし、民間だけでもできないので、行政と民間がちゃんと役割分担をした上で、その場を安定的、継続的に提供していく環境づくりをさらに、我々も提案させていただきますけれども、進めていただければ、うれしく思います。</p> <p>以上です。</p>
<p>西協会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>区のほうから何かございますか。</p>
<p>スポーツ推進課長</p>	<p>大田区のスポーツ推進課長、堀でございます。着座にてご返事をさせていただきます。</p> <p>今、桑田委員からお話ございましたように、身近なところにスポーツを安定して実施していく環境づくりというのは、私どももなかなか難しい問題があると思っております。例えば、今般のように、土手が台風の影響がございまして、野球場、それから、その他の運動施設、ほとんど使えない状況が生まれておりました。10月からでございますから、約半年ぐらい、運動の機会が少なくなりました。この間、学校、それから、各公園であったりとか、何とかいろいろな練習ができないか、試合ができないかというところで、大分調整させていただきました。その中でも、本当に場所を確保していくことが難しいと実感しました。</p> <p>そして、加えて、身近なところで指導者をどうやって見つけていくかというところも一つ、大変課題があると思っております。今、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ庁もこれを推奨し、地域の身近なところでスポーツに参加できる機会をつくろうということで、大田区内8カ所の住民主体のクラブができております。このクラブが、やはり学校であったりと</p>

	<p>か、いろいろな場所で幅広い世代の方にスポーツを提供できると、こういうような機会を拡充していきたいと思っております。</p> <p>また、企業経営ですが、地域スポーツクラブの方から専門の指導員さんを企業に派遣していただくという事業を、スポーツ推進課で試みております。これで、先ほどの事例が一つ出てまいりました、休み時間とかに少し、ちょっとしたスペースに指導員を派遣していただいて、スポーツに取り組んでいただく。なかなかこれを理解していただくことも難しいんですが、もう一方で、大田区には、中小企業が集積しておりますので、工場アパートにも、今、こちらの方を産経部と連携して、出張派遣事業というのをやらせていただいております。</p> <p>このような事例や実態で、意見やニーズを吸い上げながら、今後の展開に結びつけていきたいと考えているところでございます。</p>
西協会長	<p>ご発言ありがとうございました。</p> <p>今のご発言に関してでも、それ以外でも構わないですけど、ほかの委員の方々、ご発言はいかがでしょうか。</p>
五十嵐委員	<p>運動については、確かに大田区は、環境的には恵まれているとは言えないかなと思うんですけども、今お話がありましたように、身近なところで何かやるというところで、オリンピックも迫っておりますけれども、このムーブメントに乗って、例えば、これは、今回は、はねびよんがあちこちに出てきているんですけど、何かはねびよん体操とか、大田区ならではの何か体操とか、何かムーブメントにしていくといいんじゃないかなというふうに思います。</p> <p>というのは、結構自治体でも、この独自の伝統的な体操があったりとか、みんなが知っているとか、ありますよね。何かあと、健康かるたとかで、もうみんながこのかるたを言うと、全部が健康について出てくるとか、そういうちょっと仕掛けがないと、行政と民間が一緒になってやるというところで、せっかくオリンピックもありますし、あと、スポーツ庁のお話がちょっと出ましたけれども、働く人たちの産業保健の場面でも、スポーツ庁の絡みで、トータル・ヘルスプロモーション・プランとTHPというのがあるんですけど、そこに、本当に身近な運動をしていこうという施策が展開され始めておりまして、環境づくりももちろん大事ですけども、何か本当に場所がなくても、みんなが簡単にできるような、そういうムーブメントみたいなものも、このオリンピック・パラリンピックの機会に何か考えていくといいのではないかなというふうに思います。</p> <p>以上です。</p>
西協会長	<p>ありがとうございます。</p>

	<p>はねびよん体操って、ないんでしたっけ、現状。名前、いいですよ。元気が出そうで、子どもが喜びそうで、担当課だとかでぜひご検討いただいたらというふうに思います。ありがとうございました。</p> <p>ほかはいかがでしょうか。議事もたくさんあるので、そろそろ次に行きたいかなという感じではありますが。よろしいですか。</p> <p>また思い出して、後で時間がありましたら、ご質問、コメントをいただければと思います。少し議事を進めさせていただきたいと思います。</p> <p>(2) 番、「はねびよん健康ポイント」アプリのダウンロードについてということで、ご説明をお願いします。</p>
健康医療政策課長	<p>会長、牧野委員が到着いたしましたので、一言ご挨拶を頂戴する時間をいただいてもよろしいでしょうか。</p>
西協会長	<p>もちろん、どうぞ。お願いいたします。</p>
牧野委員	<p>すみません、遅くに申しわけございません。前回も出られなかったものですから、ちょっとだけでもと思って参りました。一応公募委員ということで、牧野と申します。ふだん、大田・花とみどりのまちづくりというNPOで、駅前の花壇ですとか、そういったところでガーデニングの活動を通して、それも健康に寄与するかなというふうなことで、無理くり公募委員をさせていただきました。よろしくお願いいいたします。</p>
西協会長	<p>ありがとうございます。ちょうど資料のイに配られている、このご活動を中心にやっていただいた、先ほどご説明がありましたが、何か追加のご発言はございますか。大丈夫ですか。</p> <p>引き続き、どうぞよろしくお願いいいたします。</p> <p>では、いいですか、議事に戻って。</p> <p>では、2番のご説明をお願いいたします。</p>
地域保健担当副参事	<p>すみません、座って失礼をいたします。はねびよん健康ポイントのダウンロードを、ぜひしていただきたいというところのお願いです。というのは、先ほども説明をちょっとさせていただきましたように、健康づくりということをテーマにはしてはいるんですが、スポーツ、観光、文化、産業、いろんな要素が詰まった事業となっております。</p> <p>外部委員の皆様方の机上には、台紙ということで、アプリケーションを使うのはどうしても苦手というご高齢者向けにつくったものです。こちらでの参加も可能ですが、圧倒的にアプリケーションをダウンロードしていただく楽しんでもいただける内容が多くなります。それが、ポケモンGOに似たような感じで、区内300カ所にはねびよんが隠れておりまして、い</p>

ろんなところに行っていただくと、はねびよんをゲットしていただける仕組みになります。歩数をためるとランキングでも出てくるんですが、歩数よりもはねびよんをためる方が楽しいと言っていたようなご意見もいただいております。

ぜひダウンロードをしてユーザーになっていただいき、厳しいご意見でも構いませんので、ぜひぜひお寄せください。

iPhoneでしたら、二次元コードを読み取っていただいても、アップルストアからはねびよん健康ポイントで検索し出てくるかと思えます。アンドロイドですと、グーグルプレイからはねびよん健康ポイントで出てくるかと思えます。

その後、初期設定が若干必要になりますが、ニックネームを6文字以上で入れていただいて、男女を選んで、その後、身長、体重ですとか、ご自分の住所の郵便番号だけ入力していただき、所要時間、数分くらいでしょうか。その後は、自分の目標歩数ですとか、毎日の健康目標をタブで選んでいただき入力し初期設定を終えて登録ということになります。

こうしたことを入力していただくと、ニックネームで自分の名前が確認できますので、ランキングでは今の歩数、全体で自分は何位なんだとわかってまいりまいります。楽しんでいただければと思います。ありがとうございます。

五十嵐委員

何度もすみません。東京工科大学の五十嵐でございます。

私、大学で学生に、とにかく今、スマホを出してやりなさいと言って、私の授業を持っている学生はみんな登録して、そうしたら、家族にもやりますと言って、ご家族で広がっている学生もいるようなんですけど、先ほどおっしゃったように、やっぱり目の前で、皆さんどうぞってやったほうが、みんなやるかなと思ひまして、大田区の中には、例えばキヤノンとか日立とか、もう何千人という企業がありますので、地域職域連携で、そこでもう直接お願いをするのもいいかなと思うんですね。

といいますのは、例えば丸の内の企業の産業保健師の方が、企業の中でもこういうアプリがあるけれど、はねびよんのこっちのほうがすごくいいから、こっちをやっていますとかというのは学生が聞いたりしますので、とても私は、本当によくできているなというふうに思って楽しませていただいているんですけど、やっぱり知らないということは認知できないので、直接その大きな企業様とかも、お願いに行くと、皆さん結構システム会社の方は、みんな簡単にやられますので、そういった仕掛けもいいのではないかなと思います。

それから、先ほど、健康経営の商工会議所様とか中小企業においても、健康経営とあわせてこれをタイアップすると、健康づくり活動をこれで

	<p>きますので、せっかくそれぞれの事業がいい感じで動いていますので、そういう広がりを持たせたらいいんじゃないかなというふうに思いました。</p> <p>以上です。</p>
西協会長	<p>ありがとうございます。貴重なご意見をいただきました。</p> <p>ほかの委員の方、既に、お使いの方で、ここが使い勝手が悪いとか、何かありますか。</p>
中田委員	<p>私、健康ウォーキングというところで、年齢が79歳で、1日20人ぐらいで歩いているので、先日、この台紙を持って訴えたんですけど、聞いているうちは納得しているんですけど、やってくださいというと、もう一歩という感じで、あと、スマホを持っている人は、大体20人のうち半分ぐらいなんです。それも、自分で積極的に持ったというよりは、子どもに、これからの時代はスマホだから、あんた持ちなさいと言って持たされたという人が多いもので、なかなかスマホに取り組めないと思うんです。</p> <p>私も、この間の大田区の池上会館でダウンロードしてもらったんですけど、なかなかカレンダーが出てこなかったり、なかなかなれにくいんですね。それで、ウォーキングも最初は失敗して、2回目はうまくいきましたけど、そんな感じで、やっているうちにだんだんよくなると思うんですけども、このはねびょん健康ポイントもどの辺の年代をターゲットにするかということにも結構よるんじゃないかなと思うんです。私は、この台紙でもいいんじゃないかということでしたんですけどね。</p> <p>あと、細かいことだけれども、応募しても外れた場合は何もないのかという話です。</p>
西協会長	<p>それは、私も思いました。最後は抽せんなんだという、若干しましたけど。</p>
中田委員	<p>私が所属する蒲田健康ウォーキング・クラブでは、一番年齢が下なものですから、皆私に言いたいことを言います。</p>
西協会長	<p>今、予算の問題があるので、なかなか難しいのかなと。</p>
中田委員	<p>だから、区役所に取りに行くにも、送るにも、郵送をやったんだから、ちょっと無理だからと言ったんですけども、できれば、そういうものの応募した回数をためておいて、何回かたまったときには、なんかそれなりのものを何かというような工夫も考えられたらどうかなという気もしないでもないですけどね。</p>

西協会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>区側から何かコメントございますか。答えにくいかもしれませんが。台紙とアプリの割合はどれぐらいですかね。9割ぐらいアプリ。</p>
地域保健担当副参事	<p>台紙の割合というのが、最終的に確認できるのが、景品の応募のはがきから推計することになります。企業とのお話をいただきましたので、そちらの連携は始めているところです。やはり企業にチラシを渡すだけでは難しく今一步工夫が必要というか、本当に、実際ダウンロードしてくださいという声を具体的に届ける場面がないと難しいんだなというのを、切実に感じています。</p> <p>当日、池上会館でお会いしまして、ダウンロードしていただき、本当にありがとうございました。来週シニアクラブさんのリーダーの方500人がお見えになる会議があり、そこでもこの事業をPR予定です。お年を重ねた方については、この人はこのアプリに精通しているというようなリーダー的な方をつくるのが大事なのかなと考えています。その方からの波及と、あとは、地域包括支援センターなどにもご協力もいただくことを、福祉部と一緒に考えている最中です。アプリを使っていただいて、ぜひぜひご意見をお寄せいただければと思います。ありがとうございます。</p>
西協会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ほかの委員の方々からいかがでしょうか。このアプリ、ポイント事業に関しまして。</p>
牧野委員	<p>私も、実は、早速と思ってダウンロードしてみたんですけど、やっぱり初期設定がどこまで何をしたら何がわかるのかとかが、ちょっとわかりにくかったんですね。私も、実は、スマホを使ってまだそんなに日がたっていないというのもあるんですけども、なので、ちょっとわかりにくかったなというのと、これをやって、やっぱり何か動機づけみたいなのがというのが、何かいいことがあるのかなというのがちょっとわかりにくかったなというのが、ゲーム感覚で登録するのもおもしろいかなと思ってやってみたんですけども、何かまだちょっとなれていない感じ。今のところは、歩数をためて、でも、今、1,500ぐらいなんですけども、一応そんなのを見て、ちょっと皆さん、頑張っていらっしゃるんだなというのを、一応、1日1回起動させて、見て行って、そんな感じの楽しみ方の、すごく低いレベルの楽しみ方しかできていないんですけども。</p> <p>前に、新潟の見附市というところに、ちょっと視察に行ったときに、あちらは、全然規模が違う自治体なんですけど、40歳になると自動的にというか、希望する方には万歩計が配られ、それを1日つけて歩いて、それをパソコンにぴっとなんか刺すと、その歩いたデータが筑波大に飛んで、</p>

	<p>筑波大ではそれを集計して、戻してくれるみたいな取り組みをされているのと、それで、たくさん歩くと、ローソンで使えるポイントに変換できるみたいな、そういう、応募して、先ほど抽せん当たらないと云々という話もあったんですけど、何かそういった区内の企業さんと商品券じゃないんですけど、そんな感じの取り組みになるとおもしろいかななんてちょっと思ったりして、何か大田区と連携して。そんなふうに思いました。</p> <p>以上です。</p>
<p>西協会長</p>	<p>ありがとうございます。では、関さん。</p>
<p>地域保健担当副参事</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>実は、景品の部分なんですけれども、恐らく、こうなると拡大してくるのかなというふうに思っていて、協賛企業さんを広く、今後、やはり募っていかなくてはいけないかなというふうに思っております。</p> <p>というのは、景品は抽せんというところなんですけれども、協賛品のご協力をいただけますと、その分、いろんな人にお配りできるということで、今回もサントリーさんの方から、なんと特茶を1,000本、協賛でいただいたんですね。スポーツ推進課さんの方のご協力も得まして。ですので、例えば、ダウンロードしていただいた方には特茶をプレゼントということで、1,000人分できたんです。</p> <p>ということで、区内企業との連携ということも考えながら、今、産業経済部さんとも、いろんな連携を進めているところです。ありがとうございます。</p>
<p>西協会長</p>	<p>ありがとうございました。いろいろこれからつながるご意見をいただけたと思いますので、ぜひご検討をいただければというふうに思っております。</p> <p>そうしましたら、まだご意見があるかもしれませんが、議題を先に進めさせていただければと思っております。</p> <p>(3)番、令和2年度予算(案)についてということで、ご説明をお願いできますでしょうか。</p>
<p>健康医療政策課長</p>	<p>それでは、本日お配りしました資料をごらんください。A3の大きな資料でございます。この資料は、2月10日に実施いたしました、令和2年度予算、区長プレス発表で使用したものでございます。令和2年度予算(案)の全体像を示しております。</p> <p>令和2年度は、おおた未来プラン10年の成果を踏まえて、新基本計画を策定する年に当たり、切れ目ない施策展開を図るために、おおた重点プ</p>

プログラムを着実に推進するとともに、四つの重点課題を掲げ、防災力の強化、新しい世代の礎となる予算としております。

予算規模は、一般会計で2,873億8,000万円余、前年度比約55億円、1.9%増の予算となっております。数ある事業の中で、次のページ以降に健康政策部の該当事業、全11事業を添付しております。

このうち、めくっていただきまして、通し番号2-7「人生100年を見据えた健康寿命延伸プロジェクト」と書かれた資料をごらんください。

区は、今後、健康プランで明らかになった健康課題や地域特性について、区内18の地域ごとに調査・分析し、科学的な根拠に基づく効果的なソフト・ハード両面の健康づくり施策を実施してまいります。実施に当たりましては、大田区に拠点を持つ東邦大学様と連携し、令和2年度から5年度までの4年間にわたり、共同研究を行ってまいります。

事業の概要ですが、区が持つ行政情報のほか、区内18地域の区民に対し無作為抽出アンケート調査を行い、その分析結果をもとに、具体的な健康施策を大学側に提言をしていただきます。また、現在実施しております、はねびょん健康ポイント事業の効果検証もあわせて実施いたします。実施に当たりましては、健康まちづくりといったハード面での視点や、内閣府が提唱するこれまでの情報社会Society 4.0に続く、新たな社会を指すSociety 5.0の視点をもって取り組んでまいります。

西協会長の多大なご支援もいただき、この事業の組み立てをしているところでございます。

本件に関しましては、その西協会長から補足説明をお願いします。

西協会長

ありがとうございます。

先ほど、ご説明がありましたように、東邦大学はキャンパスが大田区内にございまして、もともと包括協定を結んでいるところでございます。その包括協定のもとにおいて、大学としても、地域に貢献せよというような命題もございますので、ここはしっかりやろうということで、しっかりとした契約を結んだ後に、ここに書いてあるようなことをしっかり分析していくということで、先ほど、ご説明があったとおりですけれども、地区分析をしっかりやることでありますとか、それから、今始まっている、先ほどの健康ポイント事業もそうですけれども、うまくいっているところ、うまくいかないところがあると思いますので、そういうところを分析して、区にお返しして、先ほど以来、お言葉が出ていますけど、PDCAを回していく資料としていただいて、少しでもいい方向に。なかなか健康づくりって一筋縄ではいかないなので、ここを直せば、すぐひょいとよくなるというものでもないと思うんですけれども、それを継続してやっていくことが大事かなと思っておりますので、そこにお力になればということで、東邦大学も一生懸命頑張ろうというところでございます。

健康医療政策課長	<p>またいろいろご意見もあるかと思いますが、その辺のご意見をお聞きしながら、進めていければと思っているところです。</p> <p>補足としては、そんなところ。</p> <p>3の説明としては以上でよろしいですか。</p>
西協会長	<p>はい。</p>
健康医療政策課長	<p>そうしたら、また委員の方々からご意見をもらえればというふうに思いますが、いかがでしょうか。ご質問、あるいはコメント。</p> <p>これ、予算はこれから。</p>
西協会長	<p>はい。今月の末から始まる大田区議会第1回定例会の中で予算審議をいただき、3月の下旬には予算の議決がされる予定となっております。</p>
塚越委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>何かご質問とかご発言はいかがですか。</p>
塚越委員	<p>ありがとうございます。塚越でございます。</p> <p>今の大田区と東邦大学の共同研究、すごい期待が膨らむというか、これは科学的に何かやるというのは、本当に、私は国の委員もやっているんですけど、国も下手くそで、この辺が上手にできると本当に素晴らしいなというふうに期待をしながら、ちょっと今聞いていました。</p> <p>それで、今、はねびよんの健康ポイントの話から、この今、共同研究という話も出てきて、一方で、アプリでうまくいっている、あのルナルナという女性1,400万人がダウンロードしている、いわゆる自分の月経、あのリズムを全部記録していったものをビックデータとして研究開発して、この間、レポートが出たんですけども、あのくらいの規模でビックデータで何かやろうと思うと、そもそも今のこのはねびよんポイントのあのくらいの個人情報だけで果たして本当にデータが耐えられるのかというのを、逆に心配に、気軽でいいんですけど、こういうのに研究で何か使おうと思ったときに、本当にできるのかなというのが、ちょっと一つご意見を聞きたくて、ご質問ということと、この施策に対しての効果測定をしていくということと言うと、例えば、ちょっと先ほどの取り組みシートに戻っちゃうんですけど、取り組みシートの4ページに、この糖尿病と生活習慣予防についてということで、現状は、男性の40歳から60歳は肥満が多いという、ここに対して、具体的な取り組みが、生活習慣病予防教室、美ボディとか美ママとか美活とこれ、言葉だけを見ると、これはもしかしたら対女性をイメージして事業を組んでいるのか思っちゃうような、本当</p>

<p>西協会長</p>	<p>は男性なのかもしれませんが、女性をイメージしてつくっているのかと思うような事業施策があって、男性の40代から60代が肥満だと言っているのに、対女性に施策を打っているみたいなことがもしあるとすると、これは共同研究のほうで、ぜひ効果測定のところをうまく事業施策と組み合わせ、どれが効果があるんだというのも、ぜひ検討していただきたいなというところの希望を込めて、ご質問と要望でございます。</p> <p>ありがとうございました。以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>じゃあ、私から少し答えられるところに関しまして、データに関してはご指摘のとおりで、多分現状のだと、かなり不満足だろうなと思います。なので、応援と受けとめましたけども。将来的には、いろんなデータを合わせて、今、国はいろんな言葉で言っていますけども、ビッグデータと言ったり、データサイエンスと言っていますけれども、ただ、なかなかそう簡単ではないんですね。個人情報の壁もございまして、なかなか一足飛びにはいかないんですが、そういうことも見据えて、少しずつできるところから始めていこうということで、匿名化して出していただけのような情報をまず、念頭に置いてということが先であります。</p> <p>だんだんいろんな法律も変わって、そして、行き届いていけば、ご指摘のようなこういうポイント事業などでデータを活用してという、将来的にはやっていきたいなと思っていますが、急には進まないのがという非常に正直な答えでございます。</p> <p>あと、個々の事業に関しての評価ということですけども、これに関しても、行政がどこまでデータを出せるかということにもよりますので、ご意見として非常にありがたく受けとめましたけども、できるところとできないところがあるだろうなというのが、現実的なことであると思っています。これに関しても、いろいろ区と相談しながら、できる部分はお力になれるようにやっていこうかなと思っています。</p> <p>ご指摘ありがとうございました。</p> <p>何か区で追加はございますか。大丈夫ですか。</p> <p>ほかは、ご意見いかがでしょうか。</p> <p>なかなか予算に対してというご質問はしづらいかと思しますので、振り返って全体についてでも構わないと思っておりますけども、何かもう少し発言しておきたいとかありますか。大丈夫ですか。</p> <p>また進みまして、もし、途中で思い出されましたら、ご質問、コメントをいただければと思いますが、一応、今、(3)番まで進めまして、(4)番、その他は何かございましたでしょうか。</p>
<p>健康医療政策課長</p>	<p>特に区側からの報告は、今のところ予定はございません。</p>

西協会長	<p>それでは、全体を振り返りまして、特にご発言がなかった委員の方で、ちょっと一言、言っておきたいとか、ございますでしょうか。いかがですか。</p>
田中委員	<p>すみません、薬剤師会の田中です。</p> <p>はねびよんのイベントの一覧があったんですけども、薬剤師会でも、大田区から補助を受けてこういった健康マルシェという企画で、今年2回やっております。医師会の中でも、今度、4月、子ども向けに大森医師会か何か企画していて、何かイベントをやるみたいなんですけど、そういうのとかは拾っていただけるんですか。それとも、どういうふうな仕組みになって、どうしたらポイントがつくようになるのかというのが明確になっていると、じゃあ、ポイントをつける事業にしてねとか、そのときに来て、はねびよんの宣伝をしたらとかというのができると思うんですけど、どのような仕組みなんでしょうか。</p>
地域保健担当副参事	<p>ちょうど今ですけれども、令和2年度の健康ポイント事業のポイント対象事業の調査をし終えて、調整をしているところです。</p> <p>アプリケーションの中に、この事業が何ポイントつきますよという固定化したもの以外に、追加分については随時、ご相談をいただければと考えております。来年度三医師会様からコンサートをぜひともポイント対象にというお話もいただいています。</p> <p>もし、こんなイベントで、ぜひ一緒にというふうにお声かけをいただければ、イベント自体を健康ポイント対象として検討することは可能であります。</p>
田中委員	<p>それはどこにですか。</p>
地域保健担当副参事	<p>健康づくり課の私どもの方で結構です。ありがとうございます。</p>
瀬川副会長	<p>すみません。先ほどのおおた健康プランの取り組みシートのいろいろご質問がありました4番、糖尿病、生活習慣病予防についてなんですけど、確かにご指摘のとおり、下のほうに、私も今、すみません、見落としていたんですけど、美ママへの道とか、そういう女性中心になっているような表現がかなりあると思うんですけど、これは、恐らく以前は、これは39歳以下の女性健診のほうに載っていたことが、多分そのまま残っているんじゃないかと思うんです。今、39歳以下健診は男性の方も受けられますし、乳児健診なんかでも、お父さんが連れてくる方もかなりいらっしゃいますので、今後は、ちょっとこの辺を医師会としても、健康づくり課さんあた</p>

	<p>りと、もう少し内容をもんでいけたらいいなと思っています。どうかよろしくをお願いします。</p>
<p>西協会長</p>	<p>何か区の方は、ご発言はございますか。</p>
<p>健康づくり課長</p>	<p>健康づくり課長の松下です。 確かに、こちらの健康づくりの健康教室については、健康づくり課と各 地域健康課それぞれで実施しておりまして、39歳以下という冠をつけて います。今後、どのような事業をどういうターゲットで実施するのがよいか、 先ほどの東邦医大との共同研究の結果なども見ながら、反映させていき きたいというふうに考えております。</p>
<p>西協会長</p>	<p>ほかはいかがでしょうか。</p>
<p>三木委員</p>	<p>自治会連合会の三木と申します。予算のほうで、今の人生100年の件 ですけれども、ここに、健康課題で地域特性を18拠点を調査・分析とあ りますけれども、この18というのは、恐らく18の特別出張所を中心 してのエリアのだと思うんですけども、調査というのは、どういう方法で 調査をするのか、その辺がもしおわかりになるんだったら、教えてください。</p>
<p>西協会長</p>	<p>ありがとうございます。 一つは、行政が既に持っていらっしゃるデータ、いろんな、例えば健診 のデータもそうですし、あるいは、それ以外に、例えば死亡率なんかのデ ータも、もし、18地区に分割できれば、それがありますし、基本、行政 が持っていらっしゃるデータの分析と、あとは質問票、調査を世帯にお送 りして、それを回収する形の質問です。多分、その二通りが一番大きな柱 となっていきます。 どうですか。 では、いいですか。 ありがとうございます。年度末の大変お忙しい時間帯でございますけ ども、貴重なご意見をいただけたのかなと思います。 一応、議事の進行どおりに行きましたので、ここで事務局のほうにマイ クをお返ししたいと思います。</p>
<p>健康医療政策課長</p>	<p>西協会長、ありがとうございました。 委員の皆様、今回も活発なご意見をいただき、ありがとうございました。</p>

<p>保健所長</p>	<p>前回同様、いただいた意見を私どもとしては参考にさせていただき、引き続きプランの進捗に努めてまいります。</p> <p>今年度の推進会議は、今回が最後となります。次回の推進会議は令和2年度となります。開催回数は全2回を予定しており、第1回は今年度同様、7月の開催を検討中でございます。詳細が決まりましたらご連絡を申し上げます。</p> <p>委員の皆様には、今後とも、随時ご意見をお寄せいただけますよう、お願い申し上げます。</p> <p>最後に、保健所長の西田より、ご挨拶を申し上げます。</p> <p>本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。</p> <p>このおおた健康プランは、ちょうど昨年の3月に完成しまして、その後、「キラリ☆健康おおた」というプロジェクト名を公募し決定しました。それから、部の職員は230名ぐらいいますが、主管課だけが勝手にやっているのではなくて、みんなで作り上げていくように、私たちも、いろいろ仕組みをつくって、職員が日ごろからやっている健康づくりのアイデアを集めたり、工学院の学生さんに健康経営事業所認定のロゴマークのデザインをしてもらったり、事業をつくり上げるプロセスの中で、皆さんの意見を広く集めてまいりました。「事業をやりました」だけでなく、そのプロセスの一つ一つを大事にしながら、丁寧に進めていこうという思いでまいりました。それは、次年度も同じ形で進んでいきます。それだからこそ、地域の皆様のご意見も、ぜひ辛いものも、甘いものも含めて教えていただけると、私どもも、それを丁寧に受け取り、スパイラルアップして、より良いものをつくり上げていきたいと考えております。</p> <p>今後とも、まだ計画は進みますので、何とぞ皆様今後もよろしく願いいたします。私たちが頑張りたいと思います。</p> <p>簡単でございますが、結びとさせていただきます。ありがとうございました。</p>
<p>健康医療政策課長</p>	<p>以上をもちまして、令和元年度第2回おおた健康プラン推進会議を終了いたします。皆様、どうもありがとうございました。</p>